

# コンチエルティノーディキョート

第31回演奏会



1989年**10**月**10**日(火・祝) PM**7**時

京都府立文化芸術会館

主催 / 才能教育研究会京都支部



プログラム

合奏協奏曲 変ロ長調 作品 6 第 7 番 ヘンデル

ラルゴ  
アレグロ  
ラルゴ  
アンダンテ  
ホーンパイプ

オーボエとヴァイオリンのための協奏曲 ニ短調 BWV 1060 a バッハ

オーボエ 見取香奈・ヴァイオリン 山形孝志

アレグロ  
アダージョ  
アレグロ

*enenerenerenereneren* 休 憩 *enenerenerenereneren*

チャイコフスキーの主題による変奏曲 作品 35 a アレンスキー

シャコンヌ バッハ ~ ニールセン

コンチェルティーノ・ディ・キョウト

指揮 新井 覚

第1ヴァイオリン 山形 孝志・大橋 玲子・畑 都加・田中めぐみ  
沖 忠洋・大塚 真帆・高木 泉

第2ヴァイオリン 大藤美知代・畑 亜季・田中かおり・馬江 尚子  
大塚 真衣・老川 幸夫・江村美由紀

ヴィオラ 江村 孝哉・松村裕美子・仲佐 悦子

チェロ 森田 健二・壁瀬 雅彦・杉山 實

コントラバス 森田 昭・串田 遼造

今夕はバロック音楽を3曲、それに19世紀後半ころのソビエトの作曲家の作品を演奏します。

最初のヘンデルの作品は、作曲者54才の1779年に作曲された12曲の協奏曲からなる作品6の第7番です。最初のラルゴと次のアレグロで、いわゆるフランス風序曲を形作ると考えられます。次に情緒豊かなラルゴが続き、晴朗としていてのびやかなアンダンテが美しいコントラストを作り出し、最後にヘンデルの好んだイギリスで流行した舞曲であるホーンパイプで締めくくられます。

次のバッハの協奏曲は、2台のチェンバロのための協奏曲の形で残っている、BWV（バッハ作品番号）1060の協奏曲の編曲ですが、バッハのすべてのチェンバロのための協奏曲が他の協奏曲の編曲であると考えられ、この曲も失われたオーボエとヴァイオリンのための協奏曲と考えられ、復元されたものです。リトルネッロ形式（総奏と独奏が交互に出てくる手法が用いられた際、総奏が同一の素材に基づいている形式）による第1楽章に始まり、弦楽のピチカート为背景とするオーボエとヴァイオリンのソロが美しいアリアを歌っていく第2楽章アダージョ、そして短調ながら生彩明快に展開されていく第3楽章アレグロで成り立っています。オーボエ独奏には京都市立芸術大学出身の見取香奈さんをお迎えし、ヴァイオリン独奏には、当団コンサートマスター山形孝志が当たります。

3曲目のアレンスキーの作品は、1893年から1894年頃作曲された弦楽四重奏曲第2番の第2楽章を作曲者自身が弦楽合奏用に編曲したものです。アレンスキーはモスクワ派を代表する作曲家で、叙情性あふれた作品を残しています。

最後に演奏します、バッハのシャコンヌは、1720年頃に作曲された無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番の終曲で、4小節で書かれたテーマの65回に及ぶ変奏からなり、全体としては、ニ短調の第1変奏から第33変奏、ニ長調の第34変奏から第52変奏、そして再びニ短調の第53変奏から第65変奏の3つの部分に大別することができます。今夕は、ヴァイオリン二人、ヴィオラ、チェロそれぞれ一人の独奏を伴う弦楽合奏のために編曲されたものを演奏します。



取扱品目 ▶ ヤマハピアノ・エレクトーン  
スタインウエーピアノ(独)  
グロトリアンピアノ(独)  
シュペアハーケ・チェンバロ(独)  
バイオリン・ビオラ・セロ(日本製・舶来品)

## マツヲ楽器

エレクトーンハウス/ 京・上京区今出川通河原町西入ル ☎075(231)1200・5544

ヤマハピアノホール/ 京・上京区河原町通丸太町下ル ☎075(222)2211(代)

エレクトーンハウス西京/ 京・西京区上桂森下町野中ビル1F ☎075(391)7020

||||| オーディオ & ビデオ |||||

## アサヒムセン

京都市中京区河原町三条上ル東

● 1F 家電 TEL(231)4475 ● 2F オーディオ TEL(221)2334

● 3F 試聴室 ● 1F サービス TEL(221)4212